

ふれあい・コンタクト

動物と出会い、人と触れ合っ心ときめきをコーディネートするために

円山動物園ボランティア会
代表世話役 竹尾 昌己

ニュースレター

<北京動物園へ市民訪問団が行く>

9月10日から5日間の日程で、酒井園長と北京動物園に行ってきました。30名の市民交流訪問団でしたが、ボランティア会から7名の現役と2名のOGが参加しました。北京動物園の面積は86万㎡で獣舎と放飼場は広大でした。動物だけで450種類5000頭も飼育されています。全部は見て回れませんでした。飼育員さんは200名もいるそうです。入園者は有料で500万人、無料の子供達を含めると年間700万人にもなります。入園料は15元（日本円で約195円）パンダ館は5元（65円）です。6頭のパンダや孫悟空のモデルになった金絲猴や東北虎など珍しい動物も見られて大感激。今回はジャイアントパンダをじっくりと観察し、特別にキーパーさんから詳しい説明も聞くことが出来ました。又、中国語で書かれた円山動物園のパンフレットや、北海道・札幌の観光パンフレット4000枚を入園者に配ってPRしてきました。そして、北京動物園からチンパンジーが描いた貴重な絵を頂いてきましたので、動物園センターに飾っておきます。皆さんも是非ご覧下さい。ZOOガイドボランティアはいませんでしたが、只々、北京動物園の動物の種類の多さと、北京の悠久なる歴史文化に圧倒され帰ってきました。



（代表世話役 竹尾 昌己）

<今年のボランティアの日>



9月18日 今年のボランティアの日は小雨の降る中で開かれた。それにもかかわらず子供連れの家族が多く来園され私達をほっとさせた。催し物は各班の力量比べの感あり。その中でもやせい班は特質があり、類人猿の手形と自分の手を重ねて来園者を喜ばせていた。他の班も、ニホンザルのぬりえがあり、白い大きなキャンバスに好きな絵を描かせたり、宝探しなど次々と子供心を楽しませ、物知りの子が動物クイズをすぐに解答したり、頭をかかえたり、ヒントで答えてスタンプを捺していく。お客さんの中には毎回このような楽しい催し物をやっているのかと尋ねる方もあった。終わってみると例年の半分の入りであったのは残念。天気をウラム。

（ふれあい班 小熊 瞳）

<夜の動物園>

8月13日 夜の動物園を覗いてみました。昼は30℃を越えた真夏の夜。昼には想像もしなかった大勢の家族連れ、勿論若いアベック達もどんでんやって来ます。動物達も皆元気。ホッキョクグマの赤ちゃんは元気にプールで泳ぎ、エゾヒグマの『とわ』もガラス越しに水遊びで子供達が歓声を上げる。『ジェイ』『キナコ』一家も夕闇せまる放飼場を走り回る。17時半、あちこちで飼育員さんのトークが始まり、どこでも直ぐに人垣が出来ます。ほぼ一斉に始めるのは、一箇所に人を集中させない為の動物園の作戦です。空が茜色に染まり始めた世界のクマ館では、ヒマラヤグマやホッキョクグマに活魚や氷のプレゼント。そして海獣舎でもゼニガタアザラシの餌やりと忙しい事。しかし、イベントもさることながら、なんと言っても昼間とは違う動物達の生き生きとした夜の動きが、最大の魅力であることを改めて感じました。ただし、チンパンジー他サル族は皆ご就寝済みでした。



（クマチカ班 山川 泰弘）

<ユキヒョウの命名式>

8月14日 熱帯動物館外のユキヒョウ檻前に「ユキヒョウの赤ちゃん命名式」の看板が、紅白の柱上に掲げられた。園内のお客様はじめ、TV各社のカメラマン、ボランティアの人達が囲む中、酒井園長から『リアン』と発表がなされ、命名者伊原歩さんに記念品が贈呈された。『リアン』とは仏語の“きずな”が由来とのこと。投票総数 1654 票の中から選ばれたということである。現在ユキヒョウは、全国9動物園で21頭しか飼育されていないとのこと、22頭目、大事に育てたいと挨拶があった。

(ワイルド班 廣川伊佐夫)



<どうぶつ敬老の日>

9月19日入園者の流れも上々、爽快です。今年も長寿の動物達に、特別メニューが用意され公開されました。コンドルの『ウルスラ』、推定55歳以上、飼育年数55年（人間なら80歳以上と説明あり）。鶏丸ごと一羽の特別メニューは、通常なら地面に置かれる給餌も今回はお客さんに配慮して切り株の上。勝手に違うのか、人々の注目に警戒しているのか、最上段から次段までは降りてきたものの、切り株までは至りません。15分程待ったがカバの公開タイムのこともあり次へと移動（残念）。カバの『ドン』42歳。飼育年数39年（人間なら80歳以上と言う）。特別メニューはスイカ、リンゴ、メロン。15分程でほぼ完食。チンパンジーの『ガチャ』46歳。飼育年数41年（人間なら70歳以上とのこと）。特別メニューはリンゴ、バナナ、オレンジジュース、ナシ、モモ他。『ガチャ』は子供の『ハル』と登場。『ハル』は採食行動を学習しているので、勝手に手を出しません。『ガチャ』はパックごとジュースを飲み、残ったのを『ハル』が飲む。果物も然り。時々お客さんに向かって二足立ち、左手を上げて何やらアピール（何の意思表示なのでしょう）。やがて母子は好みの果物を抱え鉄塔へ。すると屋内から仲間が一齐に現れ、特別メニューにあやかっていました。『ガチャ』だけの特別メニューと思っていたら、ちゃんと仲間も食べられる量を用意していたとのこと（やさしいこと！）。ZOOの長寿たちよ、来年も大勢の人がお祝いに駆けつけますよ。

長寿バンザイ！

(やせい班 都築 勝江)



<平成23年度 動物慰霊祭>

本道を襲った15号台風の影響があって、動物の慰霊祭を科学館ホールで行ないました。宮の森幼稚園の園児と保護者、職員、ボランティアに一般の方々が参列され、亡くなった動物達に黙祷をして式典が始められました。動物園より昨年9月より今年8月末までに亡くなった動物として、哺乳類24種55点、鳥類14種22点、は虫類・両生類22種54点、合計60種131点が天国に旅たったと報告された。次に幼稚園児代表を先頭に参列者全員による献花が手向けられ、今は亡き動物達の冥福が祈られた。最後に動物園の柴田課長より「人気者のニホンザルの『大次郎』、エゾヒグマの『カステラ』、ワウワウテナガザルの『ユリ』、ハイイロカンガルーの『マイケル』、ダチョウの『バロン』、ガビアルモドキやアナコンダなど、来園者に親しまれ、愛され、感動や魅力を与えてくれた動物たちは、大往生であったり病気で死亡したりと、亡くなり方は様々でも、今はきっと天国で楽しく遊んでいることでしょう。」と挨拶があり、「これからも職員一同、動物達が一日でも長く生命を保持できるように、力を注いでまいります。」との決意も述べられ、式典を終了した。

(ふれあい班 小熊 瞳)



Q 動物園に入った時期と動機を教えてください。今年の10月で4年になります。以前は中央清掃事務所で働いていました。若い頃から動物園への異動を希望していて、ようやく来ることが出来ました。お客さんの喜ぶ顔を見るのが楽しみであり、癒しでもあります。人との関わりがあるのが今までの仕事との違いです。

Q 今までに強く印象に残っていることは何ですか？ オランウータンの『ハヤト』が生まれたときは、可愛かったですね。『レンボー』が来たときも可愛かったですよ。

Q 仕事で一番難しい点、一番気を使っている点は何ですか？ 繁殖の為の準備や方法を考えることです。今、繁殖を考えているのは、ショウジョウトキです。去年、高知からつがいやって来ました。巣を作る材料として竹ぼうきをほぐして置いたり、餌を工夫したりしています。今年はずまく行きませんでした。来年以降に期待しています。

Q バードホールから鳥が逃げたことはありますか？ キュウカンチョウが一度逃げたことがあります。幸い玄関ホールで網で捕まえることが出来ました。それ以降外に出ようとしません。

Q バードホール内にスズメを良く見かけるのですが？ 夏と冬にフラミンゴを外に出し入れするときに、入ってきた数羽が繁殖して増えました。ホールの中にはスズメに似た鳥もいて見間違えられるので、ちょっと迷惑です。ホール内で生まれたスズメなので、外から病気を持ってくる心配は無いと思います。そして良いこともあります。スズメはゴキブリを退治してくれます。スズメが少ない時は虫が多かったんです。

Q キュウカンチョウの『スケさん』に言葉を教えたりは何かはありますか？ 動物園に来た最初のころ、餌を持っていくとき「おはよう」「こんにちは」など声掛けをしていたのがきっかけです。「バイバイ」などは教えていません。お客さんの声掛けで教えていない言葉も話すようになりました。『スケさん』は人に慣れていて、寄ってきてついたり、襲ってきて人に怪我させたりするので、今はかごに閉めています。

Q 将来の夢を教えてください。退職まであと一年ちょっとしかないんですが、もう少し鳥を増やしたいです。目立つ鳥も入れたいです。夏になるとバードホールは暑いのでお客さんは集まりません。鳥を増やしてお客さんに鳥の鳴き声を楽しんでもらいたい。ホール内は、花が咲いたり、バナナもなっています。そんなところも見てほしいですね。

楽しいお話を沢山聞かせていただきました。忙しい中、お時間を作っていただき、本当に有難うございました。

(やせい班 加藤 啓子・成田 愛)



<『ココ』ちゃん 残念！>

レッサーパンダの『ココ』ちゃんが7月30日未明に死産したとの発表がありました。『ココ』ちゃんはその後食欲が落ち元気が無くなり、飼育員さんを心配させてきましたが、最近食欲も体重も戻り、まずは一安心とのことです。秋も深まり元気もりもりの季節が到来します。仲良しファミリー4匹に、是非会いに来てください。

(ふれあい班 松山 幸子)

<チンパンジー一家の主『トニー』急逝！！>

こんな事があるなんてとてもびっくりしています！！9月24日の早朝、チンパンジーの家長である『トニー』が、大展示場で亡くなっているのが発見されました。倒れている『トニー』の周りを他のチンパンジー達が見守っていたとの事です。死因については、まだはっきりとは解かっていないとの事です。昭和57年、3歳位で入園した『トニー』は、威厳ある「リーダー」として立派に成長し、又、一方で、『レディ』の復帰の際には、真っ先に挨拶にいった『レディ』を優しく迎えるなど、良いお父さんでもありました。祐川飼育員さんは、「大きな存在であり、まだまだ頑張ってもらいたかった」「時にはメス達に怒られていたが、やはり一家の柱であった」「とても淋しいが、チンパンジー達もまだ不安そうにしているので、この先残されたチンパンジー達を大切に育てていきたい」と、お気持ちを話して下さいました。「まだ、『トニー』の分の食事を用意してしまう時がある。」とも仰っていました。星になってしまった『トニー』、空からみんなを見守ってね！！時々は風になってみんなと遊んでね！！今まで沢山の思い出を本当にありがとう。安らかにお休み下さい。



(ワイルド班 水戸久仁子)

<ホッキョクグマ赤ちゃん命名式>

昨年のクリスマスに生まれ、お姉さん達や双子の兄達に負けない人気のホッキョクグマの赤ちゃんに、8月27日 待ちに待った名前が付きまして、『アイラ』です。命名式で名付け親の石川聡子さんと荒川美夢さんにホッキョクグマの縫いぐるみが贈られ、その後『ララ』『アイラ』母子に鮭や肉のプレゼントがありました。予めプールに入れられたプレゼントに、屋内から出てきた『ララ』はすぐに気づいてザブンと飛び込みますが、肝心の『アイラ』はプールの縁を行ったり来たり。『ララ』が口に鮭、腕に大きなレバーを抱えてプールから上がると、慌てて『ララ』の口元に突進し、鮭を「受け取り」でなく「横取り」します。すぐに『ララ』が取り返しましたが、結局最後は親子仲良く分け合って食べました。この少しやんちゃな『ララ』の愛する娘・愛らしい娘の『アイラ』は、これから益々『ララ』母さんやみんなの愛情を沢山もらって、元気良く愛嬌を振りまいてくれる事でしょう。



結局最後は親子仲良く分け合って食べました。この少しやんちゃな『ララ』の愛する娘・愛らしい娘の『アイラ』は、これから益々『ララ』母さんやみんなの愛情を沢山もらって、元気良く愛嬌を振りまいてくれる事でしょう。
(クマチカ班 山川 泰弘)

<赤ちゃん紹介>



は虫類館・センターラボの水槽の中で、大きなひし形の口をパクパクしているのは、ミツヅノコノハガエルの赤ちゃん（オタマジャクシ）です。上向きに付いたジョウゴ型の口で、水面の有機物を食べます。私たちの目にするオタマジャクシとは少し違って、カエルに成った3cm程の子供達は、親と同じく目の上に角の様な突起があり、倒木の横でキリッと正座(?)している姿は漂々しくも見えます。東南アジアに生息するこのカエルは、名前の通り枯葉と同じ色で、どこに居るのか探す楽しみもあります。皆さんはすぐ見つけられましたか?
(やせい班 中島香代子)

<最高の笑顔と汗をありがとう!>

8月の上旬『Kids Zoo Town キッズタウン』の子供達の職業体験(園長さんの仕事、餌切り、清掃、ペンキ塗り、園内アナウンス他)イベントが開催されました。今回はニホンザルのおやつ(の)枝切りに4人が参加。お手伝いの説明中は期待と不安げな表情の子供達。普段は入れない秘密の場所で桑の枝をゲット。遊びの感覚で楽しんでいる子供達に比べ、世話役の飼育員さんは汗だく、クタクタの様子。久しぶりの美味なおやつにサル達は大喜び。動物園に興味を持ち行動し、感動を経験した子供達。とってもいい顔、めんこかった。又、サル達、動物達に逢いに来てね。みんな有難う。お疲れ様でした。
(ワイルド班 星原 恵子)

=投函コーナー=



- * オランウータンの毛で一筆書き?年齢・性別で質感が全然違います。*
- * 「朝顔は風情があるなあー」暑さも忘れ満足のシシオザル父さん『リーフ』*
- * 北京動物園で始めて見たジャイアントパンダの骨格標本*
- * 『ナナコ』が473日の妊娠期間を経て、母親似の小柄な第一子を出産。
『ナナスケ』と名付けられ、元気いっぱい!!只今成長中。*

(やせい班 浅川 良美)
(クマチカ班 山川 泰弘)
(ワイルド班 田中 一江)
(ワイルド班 水戸久仁子)

編集後記

東北大震災と原発事故の復興もままならない中、今度は大雨による災害に日本中が悩まされている。河川の氾濫と土砂ダム決壊に避難を余儀なくされている方々には、誠にきのどくで慰めのことばをかけようがない。地形の関係で、安全な所に避難することが最善の対策との専門家達の言葉に、自然の力の強大さと人間の小ささを改めて思い知らされた気が致します。(次回原稿締め切りは12月18日です)

編集スタッフ: 小熊 瞳 松山幸子 高橋しのぶ 大地 淳 田中茂雄 田中一江 星原恵子 水戸久仁子 山川泰弘
小松久恭 成田 愛 加藤啓子
編集責任者: 鳥山 要 (TEL/FAX 011-621-8022) 佐藤正俊